



岩高同窓会報

発行所
岩ヶ崎高等学校同窓会
宮城県栗原市栗駒
中野豪宕下1の3
TEL (0228) 45-2266
FAX (0228) 45-2267
印刷 タカハシ印刷

題字 葛岡 重利 (S41 卒)
写真 佐々木勝行 (S38 卒)



八十周年を 越えて未来へ



同窓会会長
後藤 家光
(昭46年卒)

本年度で三年目を迎え、新型コロナウイルス感染症の猛威が衰えませんが、ワクチンの三回接種と共に行動の自由が緩和されてはいますが、まだまだ自由に行動できる状態とはいえない状況であります。

会員の皆様方も十分に対策を講じて感染しないようお気をつけて頂きたいと思っております。さて、昨年は、宮城県岩ヶ崎高等学校創立八十周年記念式典を挙行いたしました。

コロナ禍のなか、規模を縮小して実施されましたが、無事終了することが出来ました。これもひとえに皆様方のご支援、ご協力があったればこそと、深く感謝申し上げます。

同日行われた記念講演に現在フोटジャーナリストとして活躍をされております安田葉津紀様をお招きし、「世界の子供たち、女性たちの声を写真で伝える」と題しましてご講演を頂き、深く感銘を受けました。安田先生の講演に対し、本校生徒会副会長の五十嵐唯帆さんの御礼の言葉も大変すばらしく、深く感動いたしました。今年の同窓会入会式も昨年と

同様にどうにか実施できました。

卒業式、入学式については昨年と同様に、人数制限に伴い来賓は栗原市長、PTA会長、同窓会長で、国歌斉唱も校歌斉唱もCDによる演奏で、歌うことなく実施されました。

母校の校歌を歌うことができず残念でなりません。

なお、本年度の新入生は三十名と本校にとって大変な事態となっております。同窓会として、今後何らかの手段を講じていかねければと、役員一同検討しております。会員の皆様方にも良い方策をご提供頂ければと思っておりますので、よろしくご検討を、お願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様のご健勝とご多幸を御祈念申し上げます。

会報に寄せて



学校長
村上 孝志

同窓会の皆様には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に御理解と御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて私ごと、この度、伝統ある岩ヶ崎高等学校へ赴任いたしました村上孝志と申します。栗原・登米地区での勤務は初任以来であり、初心に戻ったつもりで校務運営にあたっております。

どうぞよろしく願いたします。

昨年度、本校は創立八十周年を迎え、コロナ禍の影響により規模を縮小した形ではありましたが、無事に記念事業を終えることができました。改めて同窓会の皆様の御理解と御協力に感謝を申し上げます。

本年にありがとうございました。八十一年度となる今年度は、第一学年が一学級減の二クラスとなり、新入生三〇名を迎えて新たなスタートを切りました。栗原市の人口（特に子供の数）の減少の影響もあり、近年本校への入学生数は減少傾向で、本校の重点課題の一つになっております。そこで、校内では「岩高魅力化プロジェクト委員会」を立ち上げ、地域の中学生やその保護者にとって魅力ある学校にしようとして、現在知恵を出し合っているところです。

一方で、令和三年度卒業生五十七名の進路を見ますと、国立大学一〇名、私立大学八十一名（延べ）の合格など、進路実績は維持しており、小規模・少人数ならではの、生徒一人一人に手を掛ける丁寧な教育を実践していると自負しております。今後、同窓会の皆様の御協力・御支援も頂きながら、地域に根ざした魅力ある学校づくりを進めて参りたいと思っております。どうぞよろしく願いたします。

最後になりましたが、同窓会の皆様の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

支部だより

再び動き 始めている



東京支部長
長沼 和秋
(昭53年卒)

昨年の8月、1年延期となつた東京オリンピック2020が開催され、嘗て青年海外協力隊員として2年間活動したネパールからも選手6名と関係者が来日、旧知の友と久しぶりに再会しました。パラ女子テコンドーに出場したゴベルダン選手は3位決定戦まで勝ち上がり、僅差で敗れネパール初のメダル獲得にもう一步のところでした。

東京岩高会総会は、感染者数の減少や今後に繋げていくためにも実施することになり、出席者にはワクチン証明書の提示と検温をお願いして11月23日に開催しました。会場は築館高校同窓生小野寺洋子さんが勤務するKKRホテル東

菅原敦夫先生「銀座で個展」



京にお願ひし、33名の方々のご出席を頂きました。限られた状況下の中、皇居の杜を見渡す壮麗な景色を眺めつつ、行政書士の傍らプロとして活動している菅原広巳さん(S55年卒)によるアメリカカンパントリーブルースのライブ演奏を楽しみつつ久しぶりの再会と元氣な様子を伺うことが出来た会となりました。

12月には、数年前より行っている4校会(築高・迫桜高・岩高・一迫商高/今回欠席が開催されました。丁度その頃以後藤直美さん(H8卒)から、東京岩高会に入りたいとお電話を頂いたことから、

この会にお誘ひし同窓会に関心を持つてくれる人が増えたことに嬉しく思ったところで

3月、加藤洋さん(S47卒/くりこま高原ファーム会長)より、母校で美術を教えられた菅原敦夫先生が銀座で個展を開くので是非伺つてはとのご連絡を受け、東京岩高会役員4名にて足を運ばせ、先生の絵画に感銘を受け、教員時代の懐かしいお話もお伺ひすることが出来ました。

ここ半年間の中で確かに動き始めてきており、同窓会の熱い思いが再び湧き上がってきていると感じております。

岩ヶ崎高校の思い出



元岩高教諭
上 総 通
(昭57・昭60)

私は、初任教員として昭和五十七年から四年間お世話になりました。先輩の先生方から教員としてのあり方・基礎・基本を教えていただき、良き生徒たちに恵まれ充実した

思い出の先生方

生活を送ることができました。私は剣道部顧問をさせていただくことが分かつていたので、生徒に正式に紹介される前の四月一日から稽古をさせていただきました。

赴任して二年目に入學してきた生徒たちが、三年生の時に県総体と国体予選で準優勝することができました。優勝できなかった悔しさはあるものの、生徒たちはよく頑張ってくれたと思っております。活動を支えてくれた先輩方と保護者の皆様には、心から感謝しております。

四年間生徒指導部で一年目は副担任、二年目より正担任をさせていただきました。

若柳高校との定期戦では、試合に負け、行動でもあまり良くないところがあり、生徒会・応援団のメンバーから反省のために若柳から岩ヶ崎まで歩つて帰りたいと申し出があり、一緒に歩つて帰つてきたのが思い出されます。当日、友人の結婚式があったのですが欠席し、二次会だけは出席する予定でしたが、二次会も

欠席となったことが思い出されます。

栗駒登山では、雪渓を登り山の尾根を歩いているときに雷が鳴り待機しているときに、体調を悪くした生徒がいるとの連絡が入り、若手の先生方と雷が鳴るなか山頂へ急ぎ、生徒を交代でおんぶして山頂からいわかがみ平まで下山したことも懐かしく思い出されます。

末筆になりますが、先輩方のご健勝とますますのご活躍、岩ヶ崎高校の発展をお祈り申し上げます。



鶯工の思い出



元鶯工高教諭
遠藤 俊樹
(平元〜平8)

私が鶯沢工業高校に赴任したのは、平成元年四月のことです。世の中では、消費税が新たに導入され、鶯工では制服が詰め襟の学ランからブレザーに変更され、新しい制服に身を包んだ新入生が入学した年です。

一年目は、一学年の副担任でサッカー部の顧問をしました。赴任してすぐの栗原・登米支部総体では、サッカー部が初優勝を成し遂げ、県総体に出場しました。県総体の一回戦では、石巻工業を相手に0対1で敗れたと記憶していますが、試合開始直後に、ハーフウェーライン付近からのロングシュートが、クロスバーを直撃したのを今も鮮明に覚えています。当時の三年生も五十歳を過ぎており、年月が過ぎるのは、早いものだと感じます。

平成七年には、ロボットコン

テストの第一回宮城県大会が開催され、優勝したこともよき思い出です。課題研究の授業でラジコン型のロボット相撲の機体の製作に取り組みうとしていたところ、当時の庄子機械科長にロボットコンテストの県大会が開催されるので、参加してみないかと言われ急遽参加することになったのです。課題研究の生徒数名と試行錯誤を重ねながら大会に出場しました。操縦を担当した生徒(確か池田君)の操縦技術がよかったです。

今回、同窓会報への寄稿を依頼され、この二つのことが真っ先に思い浮かびました。



鶯工は、私が教員としてのスタートを切った地。初任地が鶯工だったからこそ、新卒の新米教員が諸先輩や同僚教員に支えられ、何とか教員として三十四年目を迎えることができています。もう一度、鶯工で勤務することは叶いませんが、鶯工には感謝の気持ちで一杯です。

岩高の思い出



元岩高教諭
黒田 賢一
(昭61〜平元)

私は昭和六十一年四月に商業科教員として赴任しました。教務部、二年副担任、野球部顧問として教員生活が始まりました。着任してすぐに野球部監督の西郡先生にどのようにしたらよいか尋ねたところ、「俺より先にグラウンドに入れ。」の一言で、放課後は選手と共にグラウンドに走り、夜遅くまで一緒に汗を流しました。年間の休みは試験期間などを除くと年末年始の二日間のみ、今では考えられませ



んが、監督の厳しさの中にも部員一人一人のことを思う優しさを感じながら二年間を過ごしました。三年目には西郡先生から監督を委ねられ、選手のおかげで最後の年は仙北リーグで優勝することができました。

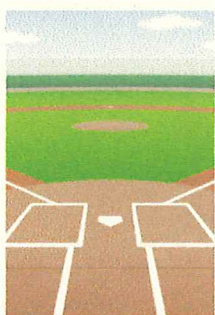
授業では二・三年生の選択科目として五科目を担当しました。特に簿記や珠算の検定試験合格に力を入れました。

当時の先生方は、生徒の進路希望に合わせて個別指導を熱心にされており、休み時間や放課後は多くの生徒が職員室にきました。私もその雰囲気触発され、特に簿記は、

授業では検定三級取得を目指して指導しましたが、より上位の級を取りたいという生徒に課外や個別指導を行いました。一級まで指導できるように作成したプリントは今でも大切に取っています。異動後も当時の指導スタイルは役に立ってきたと思っています。

行事では若柳高校との定期戦が印象に残っています。双方の応援団長が挑戦状を叩きつけ合い負けたら歩いて帰るという伝統でしたが、幸い若柳から歩いて帰ることはありませんでした。また校庭にやぐらを組んで行う体育祭など、学校が一体となった行事はどれも楽しい思い出です。

岩ヶ崎高校での生活は、素直で何事にも懸命に取り組む生徒たちと支える先生方とともに教員としての基礎を作った貴重な四年間でした。初任地が岩高で本当に良かった。



近況報告

還暦を迎えて



阿部 豊
(昭56年
岩高卒)

拝見する機会がありました。このとき初めて皇宮警察という名前を知りました。その当時はどういう職種かはわかりませんが、高校に入學すると、皇宮護衛官募集というポスターが校内に貼られていました。進学はせず就職する予定でしたので受験し合格就職することになりました。

東京に行くということでも不安もありましたが警察学校に入ってしばらくすると安心することになりました。それは職場に大勢宮城県の方がおられたことでした。当時岩校OBの方は四人、県北だけでも三十人近くはいたかと思えます。特に築館高校は多かったことを覚えています。

なぜ多いのかと思っていましたが、宮内庁では全国から勤労奉仕なる団体を受け入れています。皇居の清掃奉仕をする人々ですが、その発祥が昭和二十年十二月に「宮城県内の有志が奉仕を願ひ出た。」とありました。宮城のどこかと考えていましたが、岩高四十年史に当時の昭和陛下に国会釈を賜る女学生の「もんべ

姿」の写真が掲載されているのを見て発祥は、我々の先輩方だったのかと私の職業選びとの縁を感じているしだいです。

最後となりますがコロナ禍、皆様の健康とご多幸をお祈りしております。



母校の風景 (昭和 56 年当時)

白鷺魂!!



小畑 一義
(昭61年
鷺工高卒)

二〇一一年現在、宮城県鷺沢工業高校は存在しない。あの駒場の駅も。校舎は？体育館は？柔剣道場、弓道場は？

そして購買のマスターは？

卒業して三十五年以上も経過して孫ももうけた自分がいるのだから奴ら建物もきつと老朽化しているだろう。

私は今、地元若柳で居酒屋を経営しているのだが、当時の仲間達の集いでも思い出が尽きない訳では無い。

母校、学舎、仲間、思い出さえも。

その中で伝説と言うものは語り継がれている。語り継がねばならないものである。

一つ、皆さんは「白鷺伝説」なるものを存じだろうか？

天喜・康平年中(一〇五三〜一〇六四)に源頼義が安倍頼時、貞任父子討伐の際、八幡神社の北側に陣取り敵とにらみ合いを続けていましたが、白い鷺(うぐいす)が飛んできて頼義軍の旗竿にとまり一鳴きするや味方の勢いが一気に強まり、ついには勝利をおさめたと伝えられています。

これが白鷺伝説と言われるものですが当時の仲間達ならピンと来ましたかね？

そう、いくつかの運動部の掛け声が鷺工ファイト！から

白鷺ファイト！に変わり、ユ

ニフォームの胸にも「白鷺」の二文字を入れその名の下、切磋琢磨した事を！弱小と言われた我がサッカー愛好会も何人もの仙北選抜選手を出し最終的には部に昇格。

これは文化部に置き換えても「白鷺祭」の存在が大きく物語っている。

白鷺ファイト！白鷺魂！

コロナ禍もあり体も気持ちも落ち込み気味な日々が続くが鷺工卒業生は白鷺魂をもう一度胸に刻み前進し続けて欲しいと願う。

そう「叫ぶ木枯らし」の如く。



地域の活性化に 向けて



三浦 靖之
(平20年 岩高卒)

平成二十年に岩ヶ崎高校を卒業、進学と就職ののち、四年ほど前から地元に戻り家業を継ぎました。

家は栗駒の六日町通り商店街に構える昔からの酒屋で、栗原市の地酒を中心に揃える地酒専門店として営業しています。元々お酒は好きで、自分でも色々と飲んだりしていましたが、他の地域と比べても栗原のお酒はクオリティーが高いと感じています。この地域では、栗駒山から流れる水を米の生育や酒の仕込みに使用し醸していて、昔ながらの寒造りと南部杜氏の技が合わさり高い質を保っています。このように良いお酒ばかりです。ので自信をもって内外のお客様に薦められ、そのような商売をすることを日々楽しく感じています。

また、一度地元を離れて戻

ると地域の変化も感じました。地元六日町商店街はいわゆるシャッター通りと呼ばれ、商売を辞めてシャッターをおろす店も珍しくはありませんでした。

しかし、ここ数年で新規出店の急増、山の駅栗駒の開業などで賑わいを取り戻しつつあります。以前は週末でもがらんとしていた通りでしたが、近頃は若年層、家族連れ、観光客などの今までは異なる層が歩くようになりました。私はその中で何かの一助になればと、若手店主の集まりや商工会などのコミュニティを



通して活動しています。

家業も勿論ですが、地域の催しも今流行するコロナの影響を大きく受けています。何をするのにも制限があり思うように活動できない状況です。いつこの現状が変わるかはわかりませんが、コロナ後も見据えて行かなければならないと考えます。世情が落ち着きましたらぜひ一度は栗駒にお越しください。同窓生の皆さまとお会いできる事を心待ちにしております。最後に、母校の皆さまの安全とさらなる発展をご祈念いたします。

家業を継ぐ



岡本 祐太
(平22年 岩高卒)

昨年二月に栗駒に戻り二度目の春を迎えております。私が岩ヶ崎高校を卒業して十二年、当時の思い出を振り返りますと、ひたすらに部活であるソフトテニスに明け暮れる毎日を送っておりました。練習内容を皆で考え、部活後も

練習し、それに飽き足らず、他校のコーチに教えを請いにいったりもしたものでした。顧問の先生はいつも私達の練習に付き合ってく、ございましたが、高総体などの結果は決して満足のいくものではありませんでした。ただ、十二年経った今でも、部活を通しての経験は大きく自分の中で活きております。

高校卒業後、仙台の大学に在学中、震災にあいました。なにか人の役に立てればと思いい、スコップ団という人助けをする有志の団体に所属し、山元町で一年近く活動しました。人のために活動をはじめたのですが、一回りも二回りも上の世代の方たちとの活動は、自分にとってかけがえのないものとなりました。大学卒業後、家業を継ぐべく、東京の菓子学校、そして神楽坂の和菓子屋で五年間勤めて参りました。修行先としては大変恵まれた環境で、一年目から様々な仕事をさせていた、だき充実した毎日を過ごせたと感謝しております。

昨年、栗駒に戻り家の仕事



に就いておりますが、人口が加速度的に減っているという事に驚きました。小学校は統合され、岩高の生徒数も自分たちの通っていた頃の半数ほどに。この町で和菓子屋を営む私にとって町の人口減少は、とても頭を悩ませるものです。そんななか、岩高美術部さんが商店街の閉まったシャッターを色鮮やかに染めているのを拝見しました。私もこれからこの土地で生きていく上で、和菓子屋として、一個人として貢献できるよう尽力していきたいと思っております。

十年一昔

菅原 貴也
(平24年
岩高卒)

約十年前に進路の手引きに合格体験記を寄稿した自分に同窓会報の寄稿依頼まで来るとは思いませんでした。とりとめのない内容ではありますが、ご容赦下さい。

私が岩高に入学した時、鷺沢工業高校と合併しました。当時は合併したばかりという事もあり、部活は一緒だったものの、行事は別々で行っていたと記憶しています。

また、一年生秋には新型コロナウイルスエンザが流行。私も罹患し学年閉鎖となりました。今は新型コロナウイルスが流行していますが、いつの時代も、流行性の感染症は多くの人々にダメージを与えるのだと気付かされました。

そして二〇一一年にはあの震災を経験。私は学校で被災しましたが、先生方の尽力もありケガ無く校庭へ脱出できたのは幸いでした。



現在私は地元で働いていま

す。高校卒業後進学のために他県へ移りましたが、何だかんだで戻ってきました。高校生の時に想像していた未来とは違いますが、今の生活も悪くないと思っています。約十年という短い期間ではありますが、自分の家で水稲の作付けや家畜を飼っていることが実は珍しいことに気付いたこと、農業に関わった経験が今の仕事に役立っていること、自動車以外の運転免許に挑戦し取得できたこと、頼りになる先輩や友人に出会えたことなど、いろんな出会い、経験をすることができました。期

間にして十年ちよつとではあります。私にとつて濃厚な期間でもありました。

今の岩高は、だいぶ生徒数が減っていますが、少人数での生活もある意味貴重な経験です。十年一昔と言いますが、時間というのはあつという間に過ぎていきます。ふとした時に、「あんな事があつたなあ」「良い思い出だなあ」と思えるように、次の十年を大切にしていけることができればなあと思います。

高校時代を
振り返って阿部 一徳
(昭59年
鷺工高卒)

私は昭和五十九年三月に鷺沢工業高校電気科を卒業して現在電気工事業を営んでいます。会報への寄稿依頼を頂き高校生活三年間を振り返ることができました。

我が電気科は、十六名で一年の時から三年間一緒に学び一緒に遊んだ仲間です。担任

の佐々木俊一先生には三年間大変お世話になりました。

工業高校の学習内容は、普通教育と職業教育（工業教育）です。普通教科は普通高校の約半分でした。専門教科は、座学と実習があり実験実習の後は、恐怖のレポート提出がありました。実習当日に提出すると質問事項も優しくなりと受け取ってもらえるのです。提出が遅くなると質問事項の雨あられが降るので、度々悩まされました。時には先輩のレポートをお借りしました。大変ありがとうございました。

また、一年生から三年生まで自分は何に夢中だったか思い出してみました。一年生の時は、電気工事士（現第二種電気工事士）取得に取り組んでいました。四月に入学して六月の学科試験、八月の実技試験に無我夢中でした。担任の佐々木先生、電気科の先生指導のもと、我がクラスでは私を含め六名が一年生で合格しました。卒業までにクラス全員が取得することが出来ました。



修学旅行の思い出 西洋美術館にて S57.9

二年生、三年生は、部活動に夢中でした。私は写真部で一年生の時は、愛好会で二年生から部に昇格し、部長という大役を仰せつかりました。私たちは、年に一度の栗原郡高等学校美術連盟展で賞を取ることを目標としていました。三年連続で最高賞の連盟賞、そして奨励賞を受賞するという栄誉に輝きました。先日、部活動の顧問佐藤吉一先生が白鳥省吾の長年の研究が認められ白鳥省吾記念館名誉館長に任命されました。大変、おめでとうございます。

最後に同窓会の皆様のご健勝とご活躍をお祈りします。

創立八十周年記念式典

高橋 治

同窓会の皆様におかれましては、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。また、平素はPTA活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和三年十一月五日に創立八十周年記念式典が挙行されました。これまで二年間に渡り準備をいただいた後援会実行委員の皆様、教職員の皆様に改めて敬意を表します。式典は、ご来賓の規模を縮小し、祝賀会を中止にするなど、コロナに配慮した形となりましたが、八十年の歴史と伝統を感じさせる素晴らしい式典となりました。

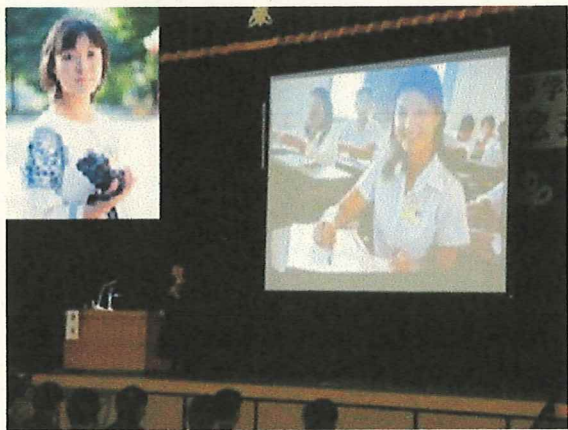
さて、最近のPTA活動についてですが、PTA活動においても、コロナの影響により、新しい生活様式を取り入れ、様々な制約の下で活動を行っております。この様ななか、「今、生徒たちのためにできることは何か」、「できるためには何をすれば良いか」を、知恵を出し合いながら活

動している状況です。例えば、

岩高三大行事「健康強歩大会」では、例年はPTA役員が豚汁を作りゴールした生徒に振舞っておりましたが、感染拡大防止のため二年間中止になりました。代わりに、ゴールした順に生徒全員にくじを引いてもらう「くじ引き大会」を開催しました。くじや賞品の準備に苦慮しましたが、生徒たちには大変好評で喜んでいただきました。

少子化により、生徒数が減少しております。「岩高に入学して良かった」と思ってもらえるよう、自分たちも楽しみながら活動に励んでおります。

最後になりましたが、創立八十年という岩ヶ崎高等学校の歴史は、同窓生の方々がつくられた歴史でもあります。素晴らしい同窓生の方々の存在があったればこそ八十年です。これからも同窓生のご協力を賜り、岩高の未来へ伝統をつないでいきたいと思



同窓会入会式

同窓会事務局

古澤 和宏

令和4年2月28日、同窓会入会式が行われました。市内で新型コロナウイルスの感染確認が続いた時期となり、密集・密接を避けて後藤会長、蘇武副会長、菅原副会長の3名の役員と各クラスの代表（幹事）による式を生物室で行いました。ほかの3年生はその様子を視聴覚室においてリモートで視聴しました。総勢57名の新入会員です。卒業記念品として同窓会より卒業証書ホルダーを、また伊藤末治郎氏（S28卒）著書「なせばなる」を卒業生全員に贈られました。卒業生の今後の活躍を期待します。



▲後藤同窓会会長より学年幹事委嘱

高校生生活



生徒会会長
菅原 大河

「岩高生とはどのような生徒か？」と問われれば、私は「素直で謙虚な生徒である」と答えるだろう。普段は物静かであるが、一人ひとりが内に秘めているパワーは計り知れない。豊かな想像力を持つている人、忍耐強い人、様々な個性が溢れており、岩高三大行事の際はクラス、学年を超えた絆を特に感じ取ることが出来る。私は今までの学校生活を通して、岩高生の団結力の強さを実感した。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、思い通りの学校生活を送ることができていないのが現実だ。行事の縮小と中止が何度も行われてきた。その中でも岩高生は、今自分達にできることを最大限に発揮し、行事を成功へと導いてきた。「ニューノーマル」という言葉があるように、現代社会、そして学校生活の在り方が変化してきている。オンラインでのホームルームや、アクリル板を使用したグループワークなど様々な試みがこの数年間で行われてきている。先が見えない事態ではあるが、立ち止まっては行けない。毎日学校に通うことができて

いることへの喜びを感じつつも将来への見通しを忘れず、これからも勉学に励んでいくことが大切だ。

過日、岩高は創立八十周年を迎えた。校舎に八十年に渡る歴史、諸先輩方の思いが刻まれており、私達も今までの伝統を継承し、発展させなければならぬ。未曾有の状況ではあるが、岩高生全員で一丸となつて、活気のある岩高を築いていきたい。同時に、一刻も早いコロナの収束を願ひ、以前のような制限の無い学校生活を送れることを望んでいる。今年こそは、全行事が縮小されることなく、楽しい思い出をつくることのできるよう願う。

これから先生方や保護者、地域の皆様、御支援の下、岩高を更に発展できるような日々努力していきたいと思う。



卓球部の活動



卓球部部長
工藤 優太

私たち男子卓球部は、三年生六人、二年生四人の計十人

で活動しています。現在は、五月に開催される予定の支部総体及び六月に開催される予定の県総体に向けて日々練習をしています。今年度は新入部員は入りませんでした。二・三年生で工夫をしながら活動しています。去年行われた支部新人戦では、個人の部で高橋直人君が優勝、佐藤魁星君が準優勝しました。また、団体の部では二人の活躍に加え、佐藤遼翔君と菅原昂士君の活躍で、優勝という快挙を成し遂げました。魁星君と直人君は、部内では誰よりも卓球への情熱が高く、皆から慕われている頼もしい存在です。彼らのおかげで卓球部が成り立っていると言っても過言ではありません。

普段は、部員全員が明るくユーモラスがあり、和気藹々として雰囲気練習をしています。先輩と後輩は仲が良く、ですが、時には互いに意見をぶつけあったりするなど良好な関係を築いています。顧問の千葉朋彦先生、矢島さやか先生は、とても優しくおもし



昨年以上の成績を目指す

美術部の活動



美術部部長
和久美咲希

ろい先生のため、練習後に毎回行っているミーティングがいつも賑やかです。今後も、男子卓球部部員一同尽力して参りますので、応援の程宜しくお願い致します。

私達美術部は現在、三年生三人、二年生三人、一年生二人の計八人で活動しています。現在地区展に向けて作品制作を日々頑張っています。

昨年の六月頃、私達は六日町商店街シャッターアートの活動に参加しました。活動内容は主に、シャッターに塗る色の考案、シャッターの洗浄、色塗りです。計十枚のシャッターに統一感を持たせるため、テーマを設定しました。テーマは栗原の四季を表現したいと考え、「春夏秋冬」に決めました。色は温かみのある日本の伝統色の中から選定しました。季節ごとに合う色バランスを考えながら選定していくことはとても難しく、大変でしたが、部員の皆で話し合ってたて決めたことはとても新鮮でした。色を塗る際、地域おこし協力隊の皆さん、日本ペイントさんと、岩高のボランティアの皆さんと協力をして



シャッターアートに取り組む

塗り進めていきました。沢山人達と交流するきっかけになり、とても充実した時間を過ごすことができました。今後も町に貢献できる活動に参加していきたいです。

さらに今年度の三月には、栗原の郵便局計六局から風景印の制作依頼を頂きました。各郵便局六局からの条件を元にデザインを考えました。また、他の風景印とは違う要素を入れたいと思い、隠し絵を入れようと提案しました。風景印は二色の色しか表現できないので、色のバランスや、見せ方を考えるのが大変でした。できたデザインを提案し、修正をするという作業を何度も繰り返しました。すべての風景印の修正が終わったときはとても達成感があり、作成に携われて良かったと改めて思いました。

美術部は様々な活動に携わってきました。今までしてきた活動の経験は、この先将来の糧になると思います。これからも、地域に貢献できる活動に参加していきたいです。

過去5年間の進路状況(令和4年3月31日現在)

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
北海道教育大函館校	1			1	
室蘭工業大	1	1		1	1
公立はこだて未来大	1				
秋田大	1				2
岩手大		1	3	3	
東北大					1
宮城教育大					
山形大	1	1			1
福島大		1	2		2
新潟大					1
筑波技術大					
宮城大					1
名寄市立大			2		
釧路公立大			1	1	
青森県立保健大					
青森公立大	1		1	1	
岩手県立大	1		3		
会津大			1		
埼玉大学	1				
高崎経済大	1			1	
群馬県立女子大					
長岡造形大					
千葉県立保健医療大					1
都留文科大		1	1	1	
長野大学		1			
徳島大学	1				
名桜大					
計	10	6	14	9	10

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
東北学院大	3	15	12	3	2
宮城学院女子大	7	4	5	8	4
東北福祉大	8	11	6	7	6
東北工業大	4	7	3	2	8
東北薬科大	1				
東北生活文化大		1		1	1
東北文化学園大	2		2		1
仙台白百合女子大	6		1	4	3
尚絅学院大	3	5	8		8
仙台大	3		2	2	
石巻専修大	3	6	12	2	2
岩手医科大					1
盛岡大	5	3	5	10	7
東北芸術工科大					6
中央大	1				
明治大				1	
成城大	1				
成蹊大				1	
日本大	2	3			
東洋大	3		1		
駒澤大	1				
専修大	2	5			
獨協大		4			1
武蔵野大				3	
神奈川大	2		3	1	3
杏林大	1				
白鷺大	1		4	2	3
国際医療福祉大	1		1	2	1
文教大			1		
東海大	1	2		1	
神田外語大		1		1	
その他	20	5	23	11	18
計	81	72	89	62	75

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
岩手県立大学盛岡短期大学部			1		
岩手県立大学宮古短期大学部					
会津大学短期大学部	1		1	1	
山形県立米沢女子短期大学	2			1	
大月短期大学	2	2		4	
長野県短期大学					
東北職業能力開発大学校			1	2	
岩手県立産業技術短期大学校					
関東職業能力開発大学校				1	
計	5	2	3	9	0

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
聖和学園短大	1	3	2	3	2
仙台青葉学院短大				2	4
東北生活文化大学短期大学部			1		
その他				1	1
計	1	3	6	7	6

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
仙台医療センター附属仙台看護助産	1	1			
東北労災看護		1		1	
栃木医療センター附属看護				2	1
東京都立府中看護					
石巻赤十字看護	2	1	2	1	
気仙沼市立病院附属看護	4	2	2	2	2
養仙台看護	1				
岩手県立一関高等看護	2	2			
花巻高等看護					
水沢学苑看護	1	1			1
白河厚生総合総合病院附属高等看護			2	1	
太田看護			1		
福島看護			1		
相馬看護	1		1	1	
さいたま市立高等看護				1	
土浦協同病院附属看護		1			2
千葉労災看護					1
君津中央病院附属看護		1		2	2
東京医科大学護国看護					
横浜中央病院附属看護				2	1
その他	1		1	3	6
計	13	10	10	16	16

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
専攻・専門・各種(高看護)	11	3	11	7	12

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
国家公務員(税務)			1		
国家公務員(行政職)		1	1	2	
宮城県職員			1	1	
宮城県警		1	2	2	2
栗原市職員(事務・消防)		1	2	4	1
東京都特別区					1
警視庁警察官Ⅲ類					1
海上保安学校学生				1	
自衛隊一般曹候補生	3			3	6
自衛官候補生	3			5	3
計	6	3	7	19	15

※延べ合格者数	令3	令2	令1	平30	平29
民間・民間企業	1	2	6	3	2

卒業生数	令3	令2	令1	平30	平29
	57	48	82	82	106

進路状況

進路指導部長
済渡 香純

昨年度は新人試制度開始から二年目ということもあり、

落ち着いた入試となりました。共通テストは大幅に難化したものの予め予想されていたこともあり、感染症対策と併せて準備を進めることができました。『受験は団体戦』であるという認識のもと、一人ひとりがベストを尽くし、支え

合いながら挑戦してくれました。進路状況は別表のとおりです。国公立大学には十名の生徒が合格しました。また中央大学などの関東私大をはじめ、私立大学へ多数の合格者を出すことが出来ました。高等看

護専門学校には六名が合格、高倍率となった公務員採用試験においても合格を掴む事ができました。本校は、地域進学重点校の指定校として、学力向上と進路目標達成を目指し教職員一丸となつて取り組んでいます。

一人ひとりが納得できる進路を手にすることができるよう、保護者の皆様、同窓会の皆様と力を合わせていきたいと考えております。同窓会員の皆様の一層の御支援を宜しくお願い致します。

同窓会総会の

お知らせ

令和四年度同窓会総会
が次の日程で開催されま
す。

日時

令和四年

八月六日(土)

午後三時より

会場

ベルデイ栗駒

◎問い合わせは

岩ヶ崎高校同窓会

事務局へ

電話

0228-4512266



令和3年度 宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会会計決算書報告

令和4年3月31日現在

○ 収入合計	1,694,935 円
○ 支出合計	791,536 円
○ 差引残高	903,399 円 (次年度へ繰越)



1. 収入の部

項 目	決 算 額	摘 要
1 入 会 金	205,200	3,600 円 × 57 名
2 協 力 金	700,000	325 名より
3 前年度繰越金	533,869	
4 雑 収 入	255,866	利子、80周年記念事業返金
合 計	1,694,935	

2. 支出の部

項 目	決 算 額	摘 要
1 卒業記念品	62,700	卒業証書フォルダー
2 支部助成費	100,146	東京支部へ
3 旅 費	0	
4 本部総会費	0	総会中止
5 会報印刷費	151,140	3,000 部
6 入会式費	0	
7 事 務 費	315,663	
本部事務費	6,036	各種郵送代
振込手数料	67,832	
会報送付委託料	241,795	(株)サラトへ支払い
8 役員会費	5,403	会議用お茶等
9 慶 弔 費	604	
10 積 立 金	100,000	
11 雑 費	55,880	80周年記念広告掲載料
合 計	791,536	

卒業年度別協力金の協力者内訳

S20	3人	S48	7人	H13	3人
S21	1人	S49	8人	H14	0人
S22	3人	S50	6人	H15	0人
S23	0人	S51	4人	H16	0人
S24	0人	S52	3人	H17	0人
S25	1人	S53	6人	H18	0人
S26	4人	S54	10人	H19	0人
S27	6人	S55	9人	H20	2人
S28	7人	S56	11人	H21	2人
S29	14人	S57	1人	H22	0人
S30	9人	S58	0人	H23	2人
S31	8人	S59	1人	H24	0人
S32	5人	S60	1人	H25	1人
S33	5人	S61	1人	H26	2人
S34	7人	S62	2人	H27	1人
S35	9人	S63	0人	H28	0人
S36	6人	H01	2人	H29	1人
S37	19人	H02	0人	H30	1人
S38	8人	H03	2人	H31	1人
S39	3人	H04	0人	R02	3人
S40	12人	H05	0人	R03	1人
S41	14人	H06	2人		
S42	8人	H07	2人	現職員	0人
S43	13人	H08	3人	旧職員	21人
S44	3人	H09	0人	舊 工	4人
S45	14人	H10	0人	一般個人	2人
S46	6人	H11	2人		
S47	7人	H12	2人	合計	325人

(一人2,000円～20,000円)

協力金 700,000 円 - 振込手数料 63,212 円 = 合計 632,168 円

お願い 同窓会の運営資金が逼迫しています。
円滑な運営を図るためにも、皆様からの
協力金をお願いします。

ご協力に
感謝申し上げます
菅原 浩紀
(昭54年卒)

本年も大勢の皆様から多大なるご協力をいただきました。会員の皆様のご協力、ご芳志に心から感謝申し上げます。お陰様で卒業生への記念品をはじめ会員を結ぶ絆である会報の発行・発送、学校施設充実への補助として支部への助成等を実施することができました。

今後母校を支え、会員相互の親睦を図る同窓会活動をより一層積極的に行っていきますが、近年の在校生減少等により本会の財源は大変厳しい状況が続いております。同窓会は卒業生の入会金として皆様方の協力金によって運営されています。一口二千円ですが、お知り合いへの勧誘や重口のご協力をぜひともお願い申し上げます。皆様方のご健勝をお祈りし、ご支援のお礼といたします。

世界中の誰が、研究者さえも、こんなに長引く感染を予測出来たでしょうか。本日の感染者数、第何波という文言は聞き飽き、既にワクチン接種と共にウィズコロナの時代なのでしょうね。

さて今号の内容は如何だったでしょうか。原稿依頼から提出までの期限が短い、という意見が出て、新年早々第一回編集委員会が開催され、新会員による寄稿者選定、そして新校長をお迎えし、正に新風を吹き込んで頂きました。

今後同窓生の皆様に心待ちして頂けるような会報を目指して参ります。前号は岩高の素晴らしさを市民にも、との思いから、公共施設やスパーにも配布しております。

末筆ながら快諾して頂いた寄稿者の皆様、佐々木前委員長、先生方、会員各位に感謝を申し上げると共に、次号には冒頭にある様な事態にならず、平穏な毎日を送れるよう祈念し、後記といたします。

編集後記

大江 洋樹
(昭56年卒)